シリーズ 探訪 わが町文化財 その127

湯浅宗光に招かれて　筏立遺跡

白上峰（湯浅町栖原）において、右耳を切るという捨身を実現した明恵上人は、一旦は京都神護寺へと戻りました。しかし、神護寺で起こった騒動を避けるために、建久9年（1198年）の秋ごろに2人の弟子とともに故郷の有田の地へと向かい、二度目となる紀州での修行生活を始めました。再び白上峰へと戻りますが、やがて湯浅宗光の招きに応じて、筏立（有田川町歓喜寺）に移り、読経・坐禅・修学の日々が始まりました。

湯浅宗光は、明恵上人の祖父である湯浅宗重の息子であり、七男ながら息子たちの中では最も器量に優れた人物でした。そのため父宗重の領地の多くを引き継ぎ、その実力から湯浅一族の惣領（一族の長）となっていきます。宗光は、その妻とともに上人を厚く信奉していたことで知られる人物であり、上人を経済的に支えるなど湯浅一族最大の後援者であり続けました。

筏立遺跡

「筏立」という地名は、有田川上流で伐り出され、流されてきた丸太を筏に組み上げた場所であったことから、名付けられたと言われています。湯浅宗光は、そのような交通・流通上の重要な場所を支配するために、拠点となる館を構えていたと考えられます。

明恵上人の修行地には、卒塔婆が建てられており、筏立遺跡として国の史跡に指定されていますが、現在の卒塔婆は江戸時代に再建されたものです。上人が亡くなった後に建てられた元々の木造卒塔婆が傷んだため、康永3年（1344年）に石造として再建されますが、その石造卒塔婆も破損してしまったために、享和2年（1802年）に建て直されました。卒塔婆の近くにある大木はヤマモモで住民の方々に親しまれています。

明恵上人の修行地は、見晴らしの良い高台にあり、川側は広い平坦地となっており、この付近に宗光の屋敷が存在していたと想定されます。また、江戸時代の記録によると、屋敷とともに「建久寺」という寺院が存在していたとされ、卒塔婆の近くにある応永4年（1399年）の板碑や応永6年（1401年）の宝篋印塔といった古い石塔は、寺院が存在したことを示しています。

明恵上人の筏立における修行は、建久10年（1199年）春の帰京を挟みながら、建仁元年（1201年）の2月ごろまで続けられました。

●〒643-0021 和歌山県有田郡有田川町下津野2018-4
●有田川町役場企画調整課　TEL 0737 - 52 - 2111（代）
●E-mail　b.kikakuzaisei@town.aridagawa.lg.jp
●ホームページURL　https://www.town.aridagawa.lg.jp